

タイトル	里山林の健全化によるフクロウの保護増殖	
概要	老木をフクロウの保護保全に活用するとともに、巣箱等で営巣活動を促進し、保全活動や地域PRのシンボルとして利用する。	
管理方法・技術的視点	<p>フクロウが林間を飛翔できるように適正な間伐、下草刈り等の整備を行うと共に、営巣場所となる樹洞を提供する老木の保全を行う。また必要に応じてフクロウ専用の巣箱作成し設置するなどして営巣場所を確保する。</p> <p>フクロウをシンボルにした取り組みは、生息に適した森作りを行うにつながり、老木をフクロウ保護に生かすことができ、また人里近い林縁部の里山林の健全化を促すことにもつながる。</p> <p>またフクロウが棲息することで、ネズミやモグラ等の減少、里山林の緩衝帯化によるイノシシなどの獣害の被害を減らすなどの効果も期待できる。</p>	
備考	<p>巣箱の形状や材質、周辺環境と設置場所との関係、里山林の整備作業等に関するノウハウが蓄積されており、フクロウの生息する地域づくりを希望する各地で、関係主体(農家、企業、NPO等)が協働して、営巣環境のチェック、巣箱設置箇所の選定、巣箱周辺の里山林の保全管理方法の検討、雛の密猟防止対策と情報管理等に関する情報共有を行うなどの取組を続けている。</p>	<p>保全整備活動のシンボルとして活用されるフクロウ(栃木県宇都宮市逆面地区)</p> 
場所・主体	栃木県宇都宮市・NPO法人グランドワーク西鬼怒・フクロウ営巣ネットワークプロジェクト	
URL等	http://satovama-navi.jp/home/example/jirei10	